



シンポジウムに先立ち、カキ養殖場の視察が行われた



シンポジウム第一部トークショー



増田知事、「牡蠣の森を募う会」代表畠山重篤さんらが、人間と自然との共生について話し合った



シンポジウム第二部パネルディスカッション



五県の知事がそろって記者会見を行い、「ひこばえの森」環境の世紀」推進宣言」を発表



森は海の恋人植樹祭



過去最高の1,000人が室根村の矢越山「ひこばえの森」で植樹



増田知事ら五県知事も記念植樹

## 森、川、海を通して環境を考える 「森は海の恋人」運動

漁民と山の民が協力して森に木を植える「森は海の恋人」運動は、宮城県唐桑町の舞根湾でカキの養殖業を営む畠山重篤さんの提唱で始まった。

舞根湾はカキ養殖の好漁場であったが、昭和30年代末を境に、生産量が減りはじめ、養殖業者は打撃を受けていた。

昭和59年、畠山さんはフランスのカキ養殖場を視察した際、豊かな漁場を守っているのは海に流れ込む川であり、その上流に広がるブナやナラの広葉樹森林帯であることに気がつく。そして、漁場を守るには、海の問題を川、森との関係の中でとらえなければならないと考えようになった。

畠山さんは養殖業者などの仲間、約70人とともに「牡蠣の森を募う会」を結成。平成元年、気仙沼湾に注ぐ大川の源流の一つである室根山の一部を「牡蠣の森」と名付け、広葉樹を植林する「森は海の恋人植樹祭」を始めた。平成5年からは、室根村第12区自治会との共催で矢越山「ひこばえの森」に植林を行い、これまでに約3万本の広葉樹が植林された。現在、同様の運動が北海道、三重県、沖縄県など全国各地で展開されている。



### 森と海が恋人なわけ



# 豊かな海は、 豊かな森から

## 「森は海の恋人シンポジウム」開催

■五県知事が出席し  
シンポジウムを開催

環境に配慮した地域・社会づくりを考える「森は海の恋人シンポジウム」(主催/岩手県・宮城県)が、六月二日、宮城県気仙沼市の市民会館で開かれました。増田知事をはじめ、宮城、秋田、青森、三重の各県知事、「森は海の恋人」運動を展開している「牡蠣の森を募う会」代表の畠山重篤さん、学識経験者らが出席し、会場は約千三百人の一般参加者で満席となりました。

シンポジウムに先立ち、出席者は唐桑町舞根湾のカキ養殖場を視察。畠山さんから養殖作業の説明を受けながら、引き上げたばかりの新鮮なカキを味わい、豊かな海のめぐみを実感する一幕もありました。

■自然・環境を活発に議論

シンポジウム第一部のトークショーには増田知事、畠山さんらが出席し、「森は海の恋人」運動を題材に、人間と自然との共生について話し合いました。

続く第二部では五県の知事によるパネルディスカッションが行われ、環境問題などについて活発に意見が交換されました。この中で増田知事は、本県と青

森県の県境で起こった産業廃棄物の不法投棄問題を取り上げ、広域的な環境対策を進める必要性を述べました。

シンポジウム終了後、五県の知事がそろって記者会見し、「ひこばえの森」環境の世紀」推進宣言」を発表。リサイクルの推進、省エネルギーの徹底など、地球規模で環境を保全し、環境への負荷を最小限に止める循環型社会の構築に積極的に取り組んでいくことを宣言しました。

■四千本のブナやナラを植樹

翌三日は室根村の矢越山ひこばえの森を会場に、牡蠣の森を募う会、室根村第十二区自治会が主催する「森は海の恋人植樹祭」が開催され、五県知事も記念植樹を行いました。

遠くは熊本県水俣市など、全国から訪れた参加者は過去最高の約千人。さわやかに晴れ渡った初夏の日差しの下、参加者たちはブナ、ナラなどの広葉樹の苗木を一本一本ていねいに植えながら、自然を大切に誓いを新たにしていました。